

学生大使 実施報告書

氏名：荒木颯花

学部・学科（コース）・学年：人文社会科学部人文社会科学科法政経コース1年

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2024年2月21日（水）～2024年3月6日（水）

1 日本語教室での活動内容

ベトナム国家農業大学では、平日の18時から19時30分まで日向クラブという日本語を勉強する会において活動した。毎回10人前後の現地の方が参加するため、一人の現地の方につき学生大使一人または二人で個別指導を行った。現地の方は8歳の小学生から社会人まで様々な年齢であり、日本語のレベルも幅広いいため個々に合わせた指導が必要であった。日本語も英語も通じない生徒さんにはホワイトボードを使い指図して指導した。要望のあった文房具の名前と「ろくじゅっぷん」「むいか」のような数字に関わる日本語の平仮名・カタカナを教えた。また、日本語能力検定のN2というものを取得するべく勉強している生徒さんは日本語での会話がスムーズにできたため、生徒さんが持参した問題集の問題について日本語で丁寧に解説したり漢字のミニテストを行ったりした。私自身問題集の問題や「虹」の漢字を間違えて教えかけたことがあったため、間違った日本語を教えていないか適宜教材を見たり他の学生大使の方に聞いたりして確認するようにした。指導の最後にはその日扱った内容の復習を行った。書けなかった漢字が書けるようになったり間違えていた読み方を正しく覚えるようになったりした生徒さんと喜び合ったことは印象に残っている。

2 日本語教室以外での交流活動

ベトナムでの行動は常に農業大学の学生やその卒業生、日本語を学ぶボランティアといったベトナムの方と一緒にあった。今回私たちは大学の近くにあるホテルに泊まっていたため、毎朝8時または9時にホテルの1階に集合し食事や買い物に向かった。メニューの注文や支払いは翻訳アプリで理解しようとしたこともあったが、ベトナムの方は優しく手伝ってくれた。食事は小さな料理店で安くおいしい料理を食べた。ベトナム料理として真っ先に思い浮かぶフォーは2回しか食べておらず、作り方が異なるブンというコメからできた麺の料理やフランスパンを使用したバインミー、ご飯にお肉を豪快にのせたコムタムなど様々な種類の料理を堪能できた。特に印象的だったのは肉まん、バインバオである。道行くお店でカラフルな肉まんがあり、キクラゲ・ハルサメ・ウズラの卵・ひき肉の入った肉まんやココナッツの味がするあんまんなど種類があった。

観光としては、ハノイの観光スポットであるホアンキエム湖やホアロー収容所から大学近くのお寺やショッピングモールまで様々な場所に連れて行ってもらった。移動は徒歩とバスが多く、タクシーや学生さんが運転するバイクの後ろに乗ることもあった。どのような場所なのかやオススメの楽しみ方・お土産についてベトナムの方が説明してくれた。移動の時間

【学生大使 実施報告書】

や食事の時間、買い物の時間などで学生さんと多くのことを話し、日本人の感覚とベトナムの人の感覚の違いを探っていった。しかし、日本と同じようなアルバイトをしていたり素敵だと思える商品が同じであったりと交流していくうちに共通点ばかり見つかったと感じる。

3 参加目標への達成度と努力した内容

外国の文化を学ぶ、日本について考える、能動的に動くことが目標であった。それぞれ五感をフルに使って体験し現地の方と交流することで達成できたと思う。ベトナムの文化について、食べ物はもちろんバイク・クラクションの多い特有の交通、早起き・昼寝の習慣、テトという旧正月や仏教の教えを大切に守る思想など日本と異なるものを多く体験した。特に環境対策について買い物をする度にプラスチック製の袋を無料でもらえたり開発途中の街で夜に必要以上のライトアップがされていたりと姿勢に違いがみられた。また、大学の英語の授業に参加し日本について教える機会があった。日本や山形の文化を調べてスライドを準備したが、日本特有の習慣やマインドについて紹介するのは難しい。例えば室内で靴を脱ぐことは日本の特有の習慣だと考えていたが、ベトナムでも同様であることに気づき修正した。それでも食べ物や伝統芸能などをまとめ、説明すると学生さんは驚きの表情や「知ってる！」という声で反応を示してくれた。多くの現地学生に日本を教えることができたと同時に私自身も日本について理解を深めることができたと思う。そして、2週間の活動で自分のやりたいことは何か、周りの人がしてほしいことは何かを考え、積極的に行動を起こすことができたと思う。わざわざ私たちの活動に来てくれた多くのベトナムの方とお話できたので、進んで好きなことについて聞いてみたり翻訳ソフトを使って説明したりして楽しく交流できた。

4 プログラムに参加した感想

初めての海外ということでベトナムまでの移動、日本語が通じない買い物、慣れない食事とハードなスケジュールの中での体調管理など大変なことが多かった。しかし、それ以上にベトナム文化の体験、現地の学生との交流、比較による日本の魅力の再認識など楽しい思い出ができた。心から学生大使プログラムに参加してよかったと思う。また、バスの移動で酔いおなかを下した日には大変迷惑と心配をかけてしまった。他の学生大使さんとベトナムの方にお詫びするとともに2週間一緒に活動して下さったことに感謝している。時間を忘れるほどの楽しい時間を過ごせたのは今回のプログラムで関わったすべての人のおかげだと感じている。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

様々な体験をした今、「やってみないと分からない」という言葉が身に染みている。ベトナムに行くまで、海外生活は大丈夫なのか、現地の人とコミュニケーションをとれるのかなど不安が多くあった。また、ベトナムではフォーしか食べなさそう、毎日晴れて暑そうなど周りの情報で自分なりのベトナムのイメージを形成していた。しかし、ベトナムに行ってみて、2週間で過ごすことで、非常に多くのことについてアップデートできた。くよくよと想像し

【学生大使 実施報告書】

て悩むのではなく、まずはやってみることが大切だと感じている。これからは迷ったときには楽しそうな方・難しそうな方を選び、様々なことに挑戦する生活を送っていきたい。そして、多様な人と出会い交流したことでその人のことを知る楽しさと必要性を実感した。人それぞれの背景や考えの理解に努め、多角的な視点で物事を捉えることができるよう精進したい。

6 現地での活動写真

写真1 フォーよりもよく食べられるブン 炭火焼の牛肉と野菜が入ったスープにつけていただく



写真2 日本語教室の様子（ぼかし） パソコン上に漢字を映したり紙に書き順を書いたりして説明



写真3 ハノイ中心部の道路 バイクやそれによるクラクションが多い、信号は少ない



写真4 ベトナム最古の大学 文廟（ぶんびょう）千年以上の歴史があり学生が合格祈願に訪れる

